

K120.41

64

2

福岡縣教育會編纂

高等科

小學算術書

兒童用

福岡縣教育會



第四課	小數除法	八
第五課	雜題	一〇
第六課	整數の性質	二〇
第七課	分數	二三
第八課	約分法	二六
第九課	分數加法	二八
第十課	分數減法	三一
第十一課	分數乘法	三五
第十二課	分數除法	三九
第十三課	雜題	四六

目次

第十四課	比	五七
第十五課	比例	五九
第十六課	正比例	六三
第十七課	反比例	六九
第十八課	雜題	七六
第十九課	總練習	八一

目次終

小學算術書卷二 兒童用

福岡縣教育會編

第一課 小數

忽(千萬分ノ一)

絲(万分ノ一)

毛(千分ノ一)

厘(百分ノ一)

分(十分ノ一)

次の數を算用數字にて記せ。

參個貳分五厘七毛五糸六忽

貳個六分九厘五糸

奇零參分七厘五毛七糸

奇零六分參厘六糸五忽

次の數を日本數字にて記せ。

0.2578

12.4506

120.342

13.0257

15.405

5.3027

第二課 小數加減法

(1) $5.354 + 17.457 - 9.259$

(2) $19.4057 - 15.354 + 24.054$

(3) $27.576 - 9.0507 - 7.54 + 14.758$

(4) $28.25 - 17.054 + 29.4$

(5) $45.2 - 28.45 + 18.54 - 2.954$

(6) 五四八七六 (7) 七八四五七

六一三五四 九二三八二

七二〇八 八六四五七

一三七八六 七五九四五

合計

合計

(8) 五分心のランプを用ふるときは、一夜の石油壹合參勺四六を要し。二分心を用ふるときは、八勺貳五七を要す。其差何程。

(9) 石油を一箱買へば、壹合の價壹錢參厘四七に當り、壹合宛小買ひとすれば、壹錢五厘に當る。一樽買ひ入るゝ方何程安くなるか。

(10) 一兒童あり。毎日使用する所の筆と木筆代とを計算するに、水筆は一日分が壹厘參毛五に當り、眞書はそれより四毛七安く、

木筆は眞書より五毛九四高く當ると云ふ。眞書及水筆は各何程に當るか。

(11) 一兒童あり。一週間の文具費を計算するに、半紙代五厘貳毛五木筆代四厘七毛、水筆代は半紙代と木筆代との和より參毛六七丈安くなると云ふ。半紙、筆、木筆代、合計何程。

(12) 五拾錢銀貨の重さは參匁五九四にして、五錢白銅貨は、それより貳匁參五かろく、貳錢銅貨は、五錢白銅より五匁五四六重し。五錢白銅貨と貳錢銅貨との重

さ、各何程。

(13) 貳拾錢銀貨の重さは壹匁四參七、拾錢銀貨の重さは〇匁七一八、壹錢銅貨は兩銀貨の重さの和より〇匁貳五五輕しと、其重さ何程。

第三課 小數乘法

(1) 135×3.2 (2) 257×4.5

(3) 147×12.3 (4) 235×21.2

(5) 573×0.25 (6) 453×0.34

(7) 農夫一日の賃錢參拾五錢のものを七日半雇へば、賃錢何程。

(8) 壹把の麥に壹升七合の出來高なるときは、九把半には何程。

- (9) 壹坪の税金參錢貳厘に當るときは、八坪半の税金何程。
- (10) 金拾圓にて、貳俵半の米を買ひ入るゝ割合とすれば、五拾圓には何程を買ひ得るか。
- (11) 卵百八拾五個買ひ入れしに、其四分通り腐敗せりと、腐敗せざるもの何個なるか。
- (12) 五百八拾四匁の雞にして、羽毛と骨の重さ、其三分なるときは、肉の重さ何程。
- (13) 35.6×2.4 (14) 45.7×2.5
- (15) 57.4×5.4 (16) 73.5×10.3
- (17) 2.35×0.03 (18) 0.25×2.31

- (19) 壹斗の價壹圓四拾錢の米、貳斗七升の代金何程。
- (20) 壹石の價拾參圓五拾錢の米、貳石五斗の代金何程。
- (21) 壹斤の價八錢五厘の黒砂糖、拾貳斤四合の代金何程。
- (22) 一日に參斤四合宛の木炭を費す時は、八日半には何程を要するか。
- (23) 一日の木炭代參錢八厘五毛に當るときは、九日半の木炭代何程となるか。
- (24) 桑葉壹貫目の價八錢五厘なれば、拾五貫參百四拾匁の代金何程。

程。

(25) 桑園一坪の桑量壹貫五百目なれば、四百五拾四坪五合の桑園には何程。

(26) 繭壹升より生絲拾壹匁三五を得るときは、繭四升六合には何程。

(27) 生絲拾匁の代金參拾九錢八厘なるときは、貳拾五匁參七の代金何程。

第四課 小數除法

(1) $1240 \div 0.5$ (2) $864 \div 2.4$

(3) $4725 \div 3.5$ (4) $8775 \div 2.7$

(5) $8704 \div 3.4$ (6) $24390 \div 4.5$

(7) $18762 \div 5.3$ (8) $15725 \div 3.7$

(9) $13.5 \div 2.5$ (10) $25.16 \div 3.4$

(11) $2.38 \div 2.8$ (12) $2.812 \div 3.7$

(13) $1.577 \div 0.19$ (14) $3.478 \div 0.37$

(15) $0.2067 \div 0.39$

(16) 貳日半の賃錢壹圓五錢なれば、壹日の賃錢何程。

(17) 三日半の賃錢八拾七錢五厘なれば、壹日の賃錢何程。

(18) 參錢貳厘にて貳合五勺の酢を買ふときは、壹合の價何程。

(19) 六拾壹錢貳厘にて四升五合の醬油を買ふときは、壹升の價何程。

(20) 貳斗五升の鹽代が六拾貳錢五

厘なれば、拾錢にて何程。

第五課 雜題

度量衡の内外國比較

一貫目 三匁七五

一匁 一メートル八一八

一里 二哩四四

一里 三キロメートル九二

一哩 十六町九八七

一哩 十四町七五

(1) 體量二十五匁五の人と、三十匁

三の人との差は何貫何匁なるか。

(2) 貳間半は何メートルに當るか。

(3) 小倉驛と博多驛との間は參拾

七哩なり。之れを日本里程に改めよ。

(4) 小倉驛より行橋驛までは拾五

哩、行橋驛より宇佐驛まで參拾七哩なり。小倉より宇佐までを、

日本里程に改めよ。

(5) 四里半は何キロメートルとなるか。

(6) 拾參哩半の速力にて、六時半航

海するとき、日本里程にて何程となるか。

(7) 參里六合の人力車賃が六拾壹

錢貳厘なれば、壹里の車賃何程。

となるか。

(8) 六町七分五厘とは六町何間のことか。

(9) 拾五町貳分五厘と拾貳町七分とは、何町何間の差あるか。

(10) 穀物商あり。壹石の價六圓五拾錢の麥四石三斗と、一石の價拾參圓の米貳石五斗參升とを買ひ入るゝには、何程の金を要するか。

(11) 一人一日の食米を四合五勺とすれば、三人貳週間分の食米は何程。

(12) 一人一日の食米四合五勺、白麥

壹合五勺とすれば、四人參週間分の米麥各何程。

(13) 一脚の價貳圓參拾錢の机貳拾八脚代と、一面の價參圓七拾錢の黑板貳面代とを合すれば、何程。

(14) 教室の床板壹坪の代金壹圓參拾五錢とすれば、四間に五間半の教場の床板代何程。

(15) 博多驛より長崎驛まで百五哩八合なり。一時間拾五哩宛の速力にて行くときは、何時間を要すか。

(16) 長崎港より鹿兒島港まで百九

拾貳湮を、速力拾壹湮の船にて行くと、拾五湮の船にて行くとは、何時間の差となるか。

(17) 四尺五寸の五ッ巾蒲團の裏地を、一尺に付八厘宛にて染むるときは、染代何程となるか。

(18) 小供の着物壹丈八尺は壹尺七厘宛にて、大人の着物貳丈八尺は壹尺六厘宛にて色揚げするときは、染代何程。

(19) 田の草採りに、賃金貳拾七錢の女を貳日半、賃金參拾五錢の男を四日半、雇ふときは、賃錢合せて何程。

(20) 石灰壹荷の價十五錢のものを、壹反歩に貳荷半の割にて、五反參畝に施すときは、代金何程。

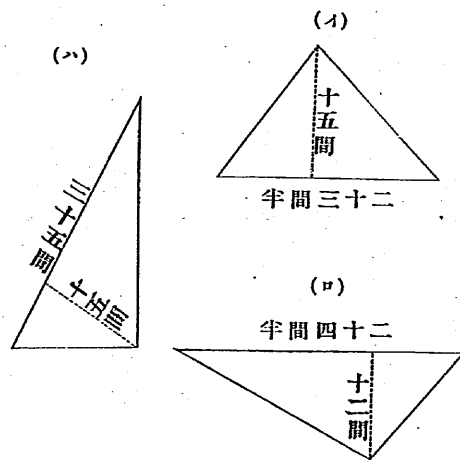
(21) 人糞壹荷の價貳拾四錢なるときは、壹反に壹荷半の割にて五反七畝に施すときは、肥料代何程。

(22) 横貳拾七間、縦拾八間半の土地を反別にせよ。

(23) 横八間四合、縦五間六合の反別何程。

(24) 横拾七間半、縦貳拾四間の土地一坪の賣價、壹圓七拾錢なるときは、總て何程。

(25) 次の如き土地の反別何程。



(26) 奥行拾五間半、間口九間の宅地壹坪の賣價貳圓參拾錢なれば、總ての賣價何程。

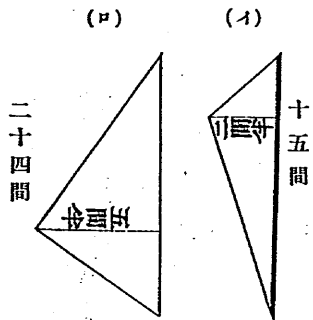
(27) 壹反歩の地價四拾五圓なるときは、壹町貳反參畝歩の地價何

程。

(28) 地租は、地價壹圓に付き貳錢五厘なり。地價五拾參圓六拾錢の地は、何程の地租となるか。

(29) 壹坪の地價拾五錢の土地、五反八畝の地租何程。

(30) 壹坪の地價拾參錢となるとき、次の如き地の地租何程。



(31) 甲乙各所持金拾貳圓なり。甲よ

り乙に何程渡さば、甲は乙の半分となるか。

(32) 甲乙各貳拾五圓宛にて商業をなし、甲は拾貳圓を利し、乙は七圓を損せり。所持金の差何程。

(33) 甲乙各參拾五圓宛にて商業をなし、甲は資本金の貳分五厘を利し、乙は資本金の壹分五厘を損せり。所持金の差何程。

(34) 大人貳人、小供壹人の家族あり。大人一日一人の食米を五合五勺とし、小供を參合五勺とす。此家族に要する貳拾五日間の食米何程。

(35) 大人貳人、小供壹人の家族あり。大人一日一人の食米を六合とし、小供一人を四合五勺とす。參斗九升六合の食米あらば、何日間支ふるか。

(36) 一日に六里半宛五日行きしも、尙ほ五里半宛の行程にて參日分ありと、全里數如何。

(37) 一時間の速力壹里參合宛にて、四時間進みて、尙達せざる里數を計算するに、毎時間の速力を參合宛増すも貳時間半を要すと、全里數何程。

(38) 一里八錢の人力車に乗ること

參里六合又一里四錢五厘の馬車に乗ること四里半なるときは、車賃合せて何程。

(39) 一里八錢の人力車に乗ること貳里四合又人力車より參錢五厘安き馬車に乗ること參里半なるときは、車賃凡て何程。

(40) 七里六合の道を行くに、貳里半は一里八錢の人力車に乗り、残りの道は一里五錢の馬車に乗りたり。車賃凡て何程。

第六課 整数の性質

偶數とは、二にて割り切るゝ數に

して、奇數とは、二にて割り切れぬ數を云ふ。

例令ば、2、4、8、12、16は、何れも二にて割り切るゝ故に偶數にして、7、11、15は、何れも二にて割り切れざるにより奇數なり。

次の數を奇數と偶數とに別て。

13 16 18 21 25 42 54 112 131

甲數が丁度乙數の何倍かに當るときは、甲數を乙數の倍數といふ。例令ば、12は6の二倍なるにより、12は6の倍數なり。甲數にて乙數が丁度割り切るときは、甲數を乙數の約數と云ふ。

例令ば、3にて15は丁度割り切る、故3は15の約數なり。公約數 二つ以上の數を約し得る數を、公約數と云ふ。

例令は、3は9も15も21も約し得るにより、此等の數の公約數なり。最大公約數 公約數の中にて最大なるものを、最大公約數と云ふ。例令は12と24の公約數は、2、3、4、6、12等澤山ある中にて、12が最大なり。

最大公約數を求むる法

其一 24と36との最大公約數を求むるには、

$$\begin{array}{r} 3)34 \quad 36 \\ 4)8 \quad 12 \\ \quad 3 \quad 2 \end{array}$$

$$3 \times 4 = 12$$

答十二

次の數の最大公約數を求めよ。

(1)	12	18	(2)	14	21
(3)	20	35	(4)	35	21
(5)	24	30	(6)	45	60
(7)	36	18	(8)	56	42
(9)	63	42	(10)	48	72
(11)	120	90	(12)	80	36
(13)	84	105	(14)	105	90
(15)	72	120			

第七課 分數

分數とは、一つのを幾つかに等分して、其内幾つかを取り集めたるものなり。

例令ば、柿一個を三等分して、其内二つを採れば三分の二なり。分數の書き方 読み方

$$1\frac{2}{3}$$

始めに横線を引き、其下

に等分したる數を記し、上には幾部分採り集めたるかを表はす數を記す。横線の下の數を分母と云ひ、上の數を分子と云ふ。

$\frac{2}{3}$ を讀んで三分の二と云ふ。

分數の種類

1. 眞分數 分子が分母より小

なる分數を眞分數と云ふ。

例令ば、 $\frac{2}{3}$ 、 $\frac{3}{5}$ 等にして、其値何れも一より小なり。

2. 假分數 分子が分母より大

なる分數を假分數と云ふ。

例令ば、 $\frac{5}{3}$ 、 $\frac{7}{4}$ 等にして、其値一より大なり。

3. 混分數 整数と眞分數とよ

り成る分數を混分數と云ふ。

例令ば、 $1\frac{1}{2}$ とか $2\frac{2}{5}$ の如し。

假分數を混分數とする法

$8\frac{3}{3}$ を混分數とするには

$$8+3=2\dots2$$

$2\frac{2}{3}$ の如し

次の假分數を混分數とせよ。

(1) $\frac{27}{5}$ (2) $\frac{34}{7}$ (3) $\frac{45}{8}$

(4) $\frac{31}{9}$ (5) $\frac{57}{12}$ (6) $\frac{54}{13}$

混分數を假分數とするには

$$3\frac{4}{5} \text{ を } 3 \times 5 = 15, 15 + 4 = 19 \text{ として } \frac{19}{5}$$

此の順序により整數に分母を乗し、之れに分子を加へて新分子とし、元との分母を其まゝ分母としたる混分數を作ればよし。

次の混分數を假分數とせよ。

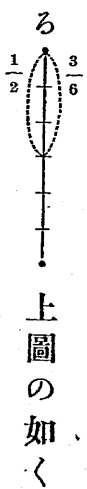
$$5\frac{4}{7} \quad 3\frac{5}{8} \quad 4\frac{3}{7} \quad 6\frac{2}{5} \quad 7\frac{1}{3}$$

第八課 約分法

分母子を同數にて除するも、分數の値は變はらず。

例令ば、 $\frac{3}{6}$ の分母子を、何れ

も 3 にて除すれば $\frac{1}{2}$ とな



或長さを六等分して、其内三つを採りたる長さと、二等分して、其内一つを採りたる長さとは相等し。

分數の形を簡單にするには、分子と分母との公約數を求めて、分母子を除すべし。

例令ば、 $\frac{9}{15}$ の分母子を通約し得るものは 3 なり、依て 3 にて約すれば $\frac{3}{5}$ となる。

次の分數を約分せよ。

- | | | | | | | | | | |
|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|-----|-----------------|------|-----------------|
| (1) | $\frac{14}{21}$ | (2) | $\frac{16}{40}$ | (3) | $\frac{24}{40}$ | (4) | $\frac{20}{28}$ | (5) | $\frac{63}{72}$ |
| (6) | $\frac{36}{45}$ | (7) | $\frac{54}{63}$ | (8) | $\frac{44}{48}$ | (9) | $\frac{36}{56}$ | (10) | $\frac{44}{52}$ |

- (11) $\frac{66}{72}$ (12) $\frac{54}{84}$ (13) $\frac{66}{72}$ (14) $\frac{72}{78}$ (15) $\frac{60}{155}$

第九課 分數加法

整數に分數を加ふるにも、又は、分數に整數を加ふるにも、直ちに混分數とすればよし。

例令ば $\frac{4}{3} + \frac{2}{3} = \frac{2+2}{3} = \frac{4}{3}$ 、 $\frac{3}{5} + \frac{4}{5} = \frac{3+4}{5} = \frac{7}{5}$ の如し。

同分母の分數を加ふるには、各分子を加へて新分子とし、元との分母を其まゝ新分母とすればよし。

例令ば $\frac{2}{8} + \frac{2}{8} + \frac{3}{8} = \frac{2+2+3}{8} = \frac{7}{8}$ となるが如し。

- (1) $\frac{1}{9} + \frac{2}{9} + \frac{4}{9}$ (2) $\frac{1}{11} + \frac{2}{11} + \frac{4}{11}$
 (3) $\frac{2}{13} + \frac{3}{31} + \frac{5}{13} + \frac{1}{13}$ (4) $\frac{1}{32} + \frac{3}{32} + \frac{4}{32}$
 (5) $\frac{2}{9} + \frac{4}{9} + \frac{5}{9} + \frac{2}{9}$ (6) $\frac{1}{17} + \frac{7}{17} + \frac{3}{17} + \frac{2}{17} + \frac{5}{17}$
 (7) $\frac{24}{32} + \frac{2}{32} + \frac{12}{32} + \frac{5}{32} + \frac{8}{32} + \frac{7}{32}$ (8) $\frac{13}{32} + \frac{4}{32} + \frac{15}{32}$
 (9) $\frac{13}{32} + \frac{7}{32} + \frac{1}{32}$ (10) $\frac{7}{31} + \frac{14}{31} + \frac{7}{13} + \frac{6}{13} + \frac{8}{31} + \frac{5}{31}$
- (11) 七里九分の二と五里九分の一と四里九分の四との和は何程。
 (12) 七尺十三分の五と八尺十三分の二と九尺十三分の五との和は何程。
 (13) 門司と小倉間 三里三十六分の三。

小倉と福岡間 十八里三十六分の三十五。

福岡と久留米間 十里三十六分の九。

久留米と三池間 九里三十六分の十八。

福岡より門司まで何里。

問 福岡より三池まで何里。

三池より小倉まで何里。

(14) 一兒童あり、復習をするに、讀本を十二枚七分の三讀み、理科書を五枚七分の一讀み、修身書を六枚七分の二讀みたり。總計何枚を讀みしか。

(15) 讀本の復習をするとき、始めの日には三枚十一分の二を讀み、其次の日には四枚十一分の四を讀みたり。總計何枚となるか。

(16) 旅人あり、始めの日に七里九分の五を歩き、翌日六里九分の二を歩き、其翌日六里九分の二を歩き、其翌日五里九分の四を行きたり。合計何程。

第十課 分數減法

或分數より之れと同分母の分數を減するには、分子の差を分子とし、元の分母を分母としたる分數

を作るべし。

例令ば $7\frac{3}{11} - \frac{4}{11}$ の如し

(1) $\frac{8}{11} - \frac{3}{11}$ (2) $\frac{9}{13} - \frac{4}{13}$

(3) $\frac{32}{37} - \frac{17}{37}$ (4) $\frac{51}{53} - \frac{28}{53}$

(5) $\frac{42}{83} - \frac{27}{83}$ (6) $\frac{25}{73} - \frac{62}{73} - \frac{48}{73}$

(7) $15\frac{39}{61} - \frac{18}{61}$ (8) $27\frac{73}{83} - \frac{21}{83} - \frac{48}{83}$

整数一より分數を減するにば、一を減數の分母と同じき分母及分子として減すればよし。

例令ば $1 - \frac{5}{9} = \frac{9}{9} - \frac{5}{9} = \frac{4}{9}$

(9) $1 - \frac{5}{11}$ (10) $1 - \frac{6}{13}$ (11) $1 - \frac{7}{15}$

(12) $1 - \frac{9}{14}$

整数二以上のものより分數を減する例。

1. $5 - \frac{5}{8} = \frac{40}{8} - \frac{5}{8} = \frac{35}{8}$

2. $7 - 2\frac{3}{5} = 7 - 2 = 5 = \frac{5}{1} = \frac{45}{5} - \frac{3}{5} = \frac{42}{5}$

(13) $8 - \frac{5}{13}$ (14) $9 - \frac{7}{12}$ (15) $11 - 5\frac{3}{7}$

(16) $14 - 7\frac{3}{8}$ (17) $15 - 3\frac{1}{5}$ (18) $12 - 7\frac{5}{12}$

18) 一卷の書籍を復習し其十七分の八を終るときは、猶餘す所何程。

(19) 或仕事の十九分の七を成すときは、猶餘す所何程。

(20) 一反の内、其七分の二にて小供

の着物を作るときは、猶何程餘るか。(二反は貳拾八尺とす)

(21) 所持金五圓の内、參圓七分の四を費さば、殘金何程。

(22) 所持金拾圓の内、拾圓十七分の八を費さば、殘金何程。

(23) 貳拾四時間の内、學校にあること五時八分の五なれば、家にあること何程。

(24) 一日の内、晝間九時二十三分の十七なるときは、夜間は何程。

(25) 一日の内、夜間八時五分の三なれば、晝間は何程。

第十一課 分數乘法

第一 分數に整數を乗する法
分子に整數を乗じて新分子となし、元との分母を其まゝ分母としたる分數を作るべし。

例題 $\frac{4}{7} \times 5 = \frac{20}{7} = 2\frac{6}{7}$

(1) $\frac{4}{27} \times 6$ (2) $\frac{2}{31} \times 12$ (3) $\frac{12}{59} \times 3$

(4) $\frac{4}{71} \times 14$ (5) $\frac{12}{23} \times 7$ (7) $\frac{13}{37} \times 14$

(7) $\frac{13}{38} \times 23$ (8) $\frac{17}{32} \times 8$ (9) $\frac{32}{51} \times 17$

(10) $\frac{37}{75} \times 25$ (11) $5\frac{7}{8} \times 6$ (12) $12\frac{5}{7} \times 13$

(13) $121\frac{2}{3} \times 23$ (14) $256\frac{5}{8} \times 67$

- (15) 一卷の書物を復習するに、毎日其二十三分の三宛讀むときは、七日間にて何程となるか。
- (16) 一時間に五枚三分の二宛筆寫するときは、五時間に何枚となるか。
- (17) 一日に六里十八分の五宛行くときは、七日間にて何程行くか。
- (18) 人力車にて一時間に貳里七分の一宛行くときは、七時間にて何程を行くか。
- 9) 或仕事の二十三分の二宛、毎日成効するときは、八日間にて何程となるか。

- (20) 或仕事の二十三分の四宛、毎週成効するときは、五週間にて何程となるか。
- (21) 福岡市は平均一戸の人員六人二十五分の十四に當る。七拾五戸にては何人となるか。
- (22) 久留米市は平均一戸の人員六人百分の一に當る。百貳拾五戸にては何人員何程。
- (23) 粳壹反歩の收穫、筑後では壹石五斗百分の五拾三に當る。八反歩の收穫高何程。
- (24) 豊前にては粳一反歩の收穫、壹石五斗百分の三に當る。九反歩

にては何程。

(25) 米壹俵の價參圓十五分の二なれば拾貳俵の代金何程。

第二 整数に分數を乗する法
運算は分數に整数を乗する法に相等し。

$$125 \times \frac{3}{4} = \frac{375}{4} = 93 \frac{3}{4}$$

(26) 壹丈八尺の六分の五は何程。

(27) 壹貫五百六拾々の八分の三は何程。

(28) 七拾五枚の書物を十五分の七丈け讀むときは何枚。

(29) 壹里の九分の二は何程か。

(30) 壹町の分拾五分の四は何程か。

第十二課 分數除法

分數を整数にて除する法

第一例題 $\frac{3}{5} \div 2 = \frac{3}{5 \times 2} = \frac{3}{10}$

第二例題 $\frac{8}{11} \div 4 = \frac{2}{11} = \frac{2}{11}$

第三例題 $\frac{3}{5} \div 4 = \frac{18}{5} \div 4 = \frac{9}{5 \times 2} = \frac{9}{10}$

(1) $\frac{5}{12} \div 4$ (2) $\frac{7}{13} \div 8$ (3) $\frac{4}{7} \div 2$

(4) $\frac{15}{37} \div 21$ (5) $\frac{32}{47} \div 8$ (6) $\frac{13}{32} \div 16$

(7) $15 \frac{3}{17} \div 13$ (8) $27 \frac{15}{23} \div 14$

(9) $11 \frac{23}{53} \div 17$ (10) $25 \frac{5}{13} \div 9$

(11) $24 \frac{7}{12} \div 35$ (12) $123 \frac{3}{5} \div 29$

(13) $7\frac{7}{23} + 13$ (14) $12\frac{2}{31} + 21$

- (15) 牛肉三斤三分の一を、五人にて食するときは、一人前何程。
- (16) 鶏肉貳斤三分の一を、七人にて食するときは、一人前何程。
- (17) 茶一斤十三分の十二を、貳拾五日間用ゆるときは、一日分何程。
- (18) 砂糖貳斤三分の二を、九度の料理に用ゆるときは、一度分何程。
- (19) ビール一ダースの價參圓十二分の一なるときは、壹本の價何程。
- (20) 葡萄酒一ダースの價五圓五分の四なるときは、一本の價何程。

- (21) 米九升の價壹圓五分の二なるときは、一升の價何程。
- (22) 麥壹斗參升の價九拾七錢二分の一なるときは、一升の價何程。
- (23) 米拾五石七斗三分の一を、壹俵參斗四升入りとすれば、何俵となるか。
- (24) 麥拾貳石三斗五分の一を、壹俵四斗貳升入とすれば、何俵となるか。
- (25) 職工貳週間の賃金六圓十分の三なるときは、一日の賃金何程。
- (26) 職工三週間の賃金九圓二十分の九なるときは、一日の賃金何程。

程。

(27) 職工あり、或仕事を拾五日間に成就す。一日に其仕事の幾部分をなすか。

(28) 職工あり、或仕事を三週間に成就す。一日に其仕事の幾部分をなすか。

(29) 五時間に七拾五哩三分の二を走る瀛車は、一時間の平均速力何程。

(30) 午前十時より午后四時までに、九拾哩五分の二走る瀛車は、一時間の平均速力何程。
 整數を分數にて除する法

例題 (イ) $24 \div \frac{2}{3} \quad 24 \times \frac{3}{2} = 60$

(ロ) $39 \div \frac{6}{7} \quad 39 \times \frac{7}{6} = \frac{91}{2} = 45\frac{1}{2}$

整數を分數にて除するには、除數の分子と分母とを取り代へて掛け算を行へばよし。

(31) $84 \div \frac{4}{5} \quad (32) 125 \div \frac{5}{7}$

(33) $612 \div \frac{6}{11} \quad (34) 147 \div \frac{7}{9}$

(35) $120 \div \frac{8}{9} \quad (36) 135 \div \frac{9}{13}$

(37) $24 \div \frac{16}{17} \quad (38) 45 \div \frac{36}{37}$

(39) $49 \div \frac{42}{43} \quad (40) 48 \div \frac{40}{43}$

(41) 一冊の書物の十八分の三は、九

枚に當ると云ふ。此書物は何枚なるか。

(42) 或學校生徒數の五分の二は貳百拾人なりと。全生徒數何人か。

(43) 或人に年齢を問ひしに、我年の七分の二は十歳なりと。其人の年齢幾歳なるか。

(44) 或人の所持金の六分の五は拾壹圓なりと。此人の所持金全額何程。

(45) 一つの水桶あり。其五分の三の所まで水を入れるれば貳斗七升なりと。此桶の容量何程。

(46) 旅人あり。全程の五分の三を行きしに九里なりと。全程里數何程。

(47) 旅人あり。一日の行程の四分の三は六里なりと。此人は一日に幾里行くか。

(48) 一時間に水桶の七分の二宛水を入れるべき管あり。何時間にて此桶に満水となるか。

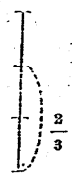
(49) 一工事あり。毎日十二分の五宛成効するときは、何日間にて終るか。

(50) 甲乙二ヶ所の工事あり。甲の方は毎日十三分の五宛成効し、乙の方は毎日十七分の五宛成効

するときば、甲の方何日早く終るか。

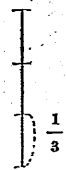
第十三課 雜題

分數には二通りの意義あり。

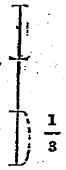


第一、一を幾つかに

等分して、其内の幾つかを採り集むと云ふこと、即ち $\frac{2}{3}$ は、一を三等分して、其二を採ると云ふの意。



第二、分子を分母に



て割ると云ふこと

にして $\frac{2}{3}$ とは、2を3にて割ると云ふの意。

右二通りの意義あれども其價は變はらず。

例題 筆參本の代金七錢なる

ときは、其壹本の代金は $\frac{7}{3}$

錢

木綿七尺の代金參拾壹錢な

るときは、壹尺の代金は $\frac{31}{7}$

錢

(1) 壹錢に付三個宛の桃拾五個の代金何程。

(2) 貳錢に付き七個宛の桃參拾五個の代金何程。

(3) 壹週間の賃金貳圓五拾錢の職工貳拾八日間の賃金何程。

- (4) 五里九分の二を里程に改算せよ。
- (5) 拾五町五分の二を里程に改算せよ。
- (6) 七畝十五分の四を反別に改算せよ。
- (7) 壹圓紙幣の内、其四分の一を授業料に納むるときは、殘金何程。
- (8) 所持金貳圓の内、其八分の三を費やすときは、殘金何程。
- (9) 玄米五斗四升を白米とせしに、其百分の五を減するとき、白米何程となるか。
- (10) 白米參斗七升の内、其九分の五

を食ふときは、殘米何程。

- (11) 竿を水中に立つるに、水上に出づる部分は、全長の七分の二にして、參尺貳寸ありと、竿の全長何程。
- (12) 或水桶の五分の貳の所まで水を入るれば、壹斗八升となる、此桶に満水すれば何程。

- (13) 或水桶に甲管を用ひて水を入るゝときは、三時間にて満水となり、乙管にて入るゝときは、五時間にて満水となる。今此兩管を同時に用ふるときは、何時間にて満つるか。

- (14) 一反(二十八尺)の七分の二にて一ッ身の着物を作り、残りの五分の四にて三ッ身の着物を作ったり。各何尺宛なるか。
- (15) 一反の七分の二にて一ッ身壹枚、七分の四にて三ッ身壹枚を作るときは、残り何尺なるか。
- (16) 菜園壹反貳畝の内、十二分の五には芋を作り、残りには甘藷を作ったり。其廣さ何程。
- (17) 菜園貳畝貳拾歩の内、五分の一には、ねぎを作り、五分の三には大根を作り、残りには蕪を作ったり。各廣さ何程。

- (18) 木筆一ダースの價貳拾參錢のものを、五ダース半買ひ入るゝ時は、其代價何程。
- (19) 木筆一ダース貳拾五錢のものを、甲、乙、丙にて別くるに、甲は五本、乙は四本、丙は三本を取りたり。各代金何程。
- (20) 兄弟相謀りて一ダースの木筆を貳十七錢にて買ひ、兄は七本を取りて、弟は五本を取り、兄は九ヶ月、弟は七ヶ月使用せり。各一ヶ月分代金何程に當るか。
- (21) 學校兒童あり。書籍貳冊を買ひしに、上巻は拾八錢にして、下巻

は上卷より三錢貳分の一高し。
上下貳册代金合せて何程。

(22) 上下貳册の書籍代合せて三拾三錢五厘なり。而して下卷は上卷より金參錢貳分の一高し。各代金何程。

(23) 一尺の價參拾五錢貳分の一の縮緬拾五尺を買ひ入れ、之れを賣りて六拾錢の利を得たり。一尺の賣價何程。

(24) 木綿七反を拾七圓貳分の一にて買ひ入れ、一反に付き三拾五錢二分の一宛利して賣るときは、一反の賣價何程。

(25) 四時間に七里行く割りにて、拾四里の道を行くには、何時間か、
ゝるか。

(26) 三時間に五里行く割りにて、拾貳時間行くときは、何里行くか。
(27) 瀛車あり。一時間に十五哩二分の一宛五時間進みしに、全程の二分の一の所まで達せり。全程何程。

(28) 瀛車あり。全程の三分の一を行くに、十二里の速さにて四時間を費せり。全程何程。

(29) 甲乙二人あり。自轉車にて旅行をなすに、甲は一時間に三里八

分の一を走り、乙は二里五分の四を走る。今兩人同時に出立するときば、何時間にて何程の差を生ずるか。

(30) 甲乙二人の自轉車乗りあり。毎時の速さ甲は三里五分の四、乙は四里五分の一なり。甲が出發して十六里行きし後、乙追ひ掛けたり。何時間にして甲に追ひつくか。

(31) 旅人あり。四拾九里の道を行くに、六時間にて全里程の七分の六の所に達せり。一日の行程何程。

(32) 旅人あり。毎日六里半宛五日行きしも、尙ほ達せざること八里なりと。全里數何程。

(33) 水夫あり。靜水なれば、毎時一里二分の一を漕ぐ。今毎時の水流貳里貳分の一の川を、六里漕ぎ下るには、何時間を要すか。

(34) 水夫あり。靜水なれば、毎時貳里貳分の一を漕ぐ。今毎時の水流貳里三分の一の川を、四時間遡るときは、其里數何程。

(35) 一人の職工にて十二日間成就する一工事あり。五日間には此工事の幾部分を成すか。

- (36) 一工事あり。之を甲に命ずるときは、六日にて終はり、若し乙に命ずるときは、七日にして終はるべし。今此工事を甲乙兩人に命ぜば、幾日にて終はるか。
- (37) 甲乙二工あり。一事を成すに、甲のみならば十日、乙のみならば十二日に此業を終る。今甲一人にて五日働き、此後乙一人にて成さば、何日にて成就するか。
- (38) 父子あり。父は五十壹歳にして、子は父の年の十七分の三より二歳多しと云ふ。子の年齢幾歳なるか。

- (39) 父子あり。父は四拾五歳にして、子は父の年の三分の二より十八歳を減したるものなりと。子の年齢幾歳なるか。
- (40) 學生に其年齢を尋ねしに、我が年の三分の一に二歳を加ふれば七歳となると、學生の年齢幾歳なるか。

第十四課 比

- 十二は四の何倍に當るか。 $\frac{12}{4} = 3$
- 十五は三の何倍に當るか。 $\frac{15}{3} = 5$
- 三錢は十二錢の幾部分に當るか。

$$\frac{3}{12} = \frac{1}{4}$$

五錢は十五錢の幾部分に當るか。

$$\frac{3}{5} = \frac{1}{5}$$

比とは、右の如く同じ種類の二つの數を比べ、甲數が乙數に對して何倍に當るか、又は幾部分となるかを表はすものなり。

比を書き表はすには $\frac{12}{4}$ 又は $\frac{12}{4}$ とし、讀んで12が4に於ける比と云ふ。

- (1) 四の十二に於ける比は如何。
- (2) 十五の五に於ける比は如何。
- (3) 七の十五に於ける比は如何。
- (4) 壹尺五寸の貳尺五寸に於ける比は如何。

(5) 參丈五尺の貳丈に於ける比は如何。

(6) 金九拾錢の金貳圓七拾錢に於ける比は如何。

(7) 金拾八錢の金六錢五厘に於ける比は如何。

(8) 壹里拾四町の貳里八町に於ける比は如何。

(9) 貳畝拾六歩の壹畝拾貳歩に於ける比は如何。

(10) 四時十六分の二時十四分に於ける比は如何。

第十五課 比例

或比の價が、他の比の價と等しくなるものを、比例と云ふ。

例令ば $\frac{4}{12}$ の價は $\frac{1}{3}$ にして、 $\frac{5}{15}$ の價も $\frac{1}{3}$ なり、依て $\frac{4}{12} = \frac{5}{15}$ の比例となる。

比例算法 $\frac{4}{12} = \frac{5}{15}$ の四數の内、三つの數を知りて他の一數を求むることにして、例令ば 4 が未知數なるときは、 $12 \times \frac{5}{15} = 4$ 又は 12 が未知數なるときは、 $4 \times \frac{5}{15} = 21$ の如く演算をなすべし。

例題

半紙三帖の價七錢五厘なるときは、九帖の價何程。

九帖が三帖に於ける比は三倍なるにより、價も三倍となるべし。

$$75 \times \frac{9}{3} = 225 \text{ 圓}$$

墨五挺の價貳拾參錢五厘なるときは、參挺の價何程。

參挺の五挺に於ける比は $\frac{3}{5}$ なるにより、價も從て $\frac{3}{5}$ となる。

$$235 \times \frac{3}{5} = 141 \text{ 圓}$$

前例の如く、半紙が増せば從て其價も増し、墨の挺數が減すれば其價も減する如く、一方が増せば他の一方も増し、又一方が減すれば

他の一方も減するが如き比例を、
正比例と云ふ。

第十六課 正比例

- (1) 人夫五日の賃錢が貳圓拾錢なるときは、七日の賃錢何程。
- (2) 大工十二日の賃錢六圓六拾錢なるときは、一週間の賃錢何程。
- (3) 米壹斗貳升の代金壹圓五拾錢なるときは、七升の代金何程。
- (4) 白米壹斗五升の代金貳圓貳錢五厘なるときは、九升の代金何程。
- (5) 麥壹斗四升の代金七拾八錢四程。

- (6) 厘なるときは、八升の代金何程
- (6) 白麥壹斗五升の代金壹圓拾貳錢五厘なるときは、壹斗七升の代金何程。
- (7) 酒壹升五合の代金五拾七錢なるときは、貳升五合の代金何程
- (8) 醬油貳升參合の代金參拾貳錢貳厘なるときは、壹升五合の代金何程。
- (9) 金壹圓貳拾錢て、拾貳斤の黒砂糖を買ひ得るときは、金六拾八錢にて何斤を買ひ得べきか。
- (10) 金六錢に五丁の蒟蒻を買ひ得るときは、拾八錢には何丁買ひ

得べきか。

- (11) 木綿壹丈八尺の價壹圓拾七錢
なるときは、金九拾壹錢にて何
程の木綿を買ひ得るか。
- (12) 絹壹丈五尺の價參圓四拾五錢
なるときは、金四圓六拾錢にて
何程の絹を買ひ得るか。
- (13) 木炭壹貫四百目の代金壹圓參
拾參錢なるときは、金壹圓拾四
錢にて何程買ひ得るか。
- (14) 金四圓九拾錢にて木炭拾四俵
を買ひ得るときは、金四圓貳拾
錢にて何俵の木炭を買ひ得る
か。

(15) 貳反四畝の田を耕すに、三日か
ゝるときは、五反六畝の田を耕
すには、何日かゝるか。

(16) 參人で貳反四畝拾貳歩の田を
耕すとすれば、七人にて何程を
耕すか。

(17) 金七圓七拾錢で二週間宿泊さ
るゝときは、四圓四拾錢では何
日間宿泊し得るか。

(18) 壹月の下宿料五圓五拾錢と定
めたるるとき、拾七日間の宿料何
程。(三十日を一月とす)

(19) 九拾六枚の書物を讀むに、始め
七時間にて五拾六枚を讀めり。

此割合にて讀むときは、猶何時間にて終るか。

(20) 百二十ページの書物を讀むに、始め五時間に七拾五ページを讀みたり。此割合にて進む時は、猶何時間にて終るか。

(21) 食米貳斗貳升五合を貯へ置きしに、七日に壹斗七升五合を食したり。此割合にて食ふときは、猶何日間を支ふるか。

(22) 石油壹函を買ひ入れしに、九升六合あり、然るに十二日間に壹升八合を費したり。此割合にて使用するとき、尚ほ何日間支

ふるか。

(23) 甲乙二軒の借家あり、一ヶ月の借家料、甲は參圓にして拾五坪あり、然して、乙は甲より參坪廣し、乙の借家料何程。

(24) 甲の借家は拾貳坪にして、壹ヶ月の借家料參圓なり、乙の借家料も同じ割合にて、甲より壹圓貳拾五錢高し、乙の坪數何程。

(25) 甲は縮緬六尺を買ふて貳圓拾錢を拂ひ、乙は同じ縮緬を甲より參尺五寸多く買ひたり。乙の拂ひし代金何程。

(26) 甲は甲斐絹八尺を買ふて壹圓

貳拾錢を拂ひ、乙も同じ甲斐絹を買ふて甲より五拾貳錢五厘多く拂ひたり。乙は何尺買ひしか。

(27) 金九拾壹錢にて木綿壹丈貳尺を買ひ得るとき、更に貳拾六錢を加ふれば何尺買ひ得べきか。

(28) 大豆壹升の價拾貳錢のとき、豆腐壹丁を壹錢八厘宛に賣りたり。然るに大豆壹升の價拾四錢となるときは、豆腐壹丁に付き、以前より何厘高く賣るべきか。

(29) 大豆壹升の價拾貳錢五厘のとき、豆腐壹丁を貳錢宛に賣りた

り。然るに大豆壹升の價貳錢高くなるときは、豆腐壹丁の價を以前より何程高くすべきか。

(30) 米壹升の價九錢のとき、酒壹升の價貳拾四錢なりしが、米壹升の價六錢高くなるときは、酒壹升を何程に賣るべきか。

第十七課 反比例

例題

職工四人にて十二日を要する仕事あり。之れを八人にてなすときは、何日を要するか。

人数は二倍となりて、仕事は

かはらぬ故、日数は以前の八分の四にて成効すべし。

$$12 \times \frac{4}{5} = 9.6 \quad \text{答六日}$$

五人十五日分の食米を、三人にて食するとき、何日分となるか。

人数が減じて以前の五分の三となり、食米はかはらぬ故、日数は十五日より多くなるべし。

$$15 \times \frac{3}{5} = 9 \quad \text{答二十五日}$$

右例題の如く、人数が増せば却て日数は減し、又人数が減れば日数が増す如き比例を、反比

例と云ふ。

(1) 大工が一事をなすに、毎日八時間宛働くときは、十四日にて終るべきものを、毎日七時間宛働くときは何日間にて終るか。

(2) 筆耕が毎日七時間宛働くときは、十二日にて寫し終るものを、毎日四時間宛働くときは、何日を要するか。

(3) 四斗貳升入拾貳俵を、參斗六升入とすれば、何俵となるか。

(4) 參斗六升入拾七俵を、參斗四升入とすれば、何俵となるか。

(5) 横拾貳間、縦貳拾壹間の地と横

拾四間の地と交換するときは、
縦何間のものを取るべきか。

(6) 間口八間、奥行拾四間の屋敷と
間口七間の屋敷と同坪敷にて
交換するには、奥行何間のもの
を取るべきか。

(7) 板壁を作るに、幅八寸五分の板
を用ゆれば百三十枚を要す。幅
六寸五分の板を用ゆるときは、
何枚を要するか。

(8) 十二人の人夫が十四日にて落
成すべき土工あり。之れを九日
間にて落成せしめんに、何人
を要するか。

(9) 十五日にて落成せんとすれば、
十二人の人夫を要する仕事あ
り。之を九日にて終らんとすれ
ば、毎日何人を要するか。

(10) 毎日七里宛行けば十二日にて
達すべき所に、毎日六里宛行く
ときは、何日を要するか。

(11) 毎時壹里貳合宛行けば、七時間
に達すべき所に、毎時壹里四合
宛行けば、何時間かゝるか。

(12) 毎時八枚宛讀むときは、十二時
間にて讀み終はる書物を、十六
時間に終らんには、毎時間何枚
宛讀むべきか。

(13) 五人十五日分の食米あり。之れを三人にて食するときは何日丈け日數が増すか。

(14) 農夫四人にて七日半に耕し終はるべき地あり、之れを五日に耕し終はらんには何人増すべきか。

(15) 農夫五人八日間の仕事あり、之れを十日間に終らんとすれば、何人を減すべきか。

(16) 四斗貳升入拾七俵あり、之れを參斗四升入とすれば、何俵増すか。

(17) 參斗四升入拾八俵あり、之れを參斗六升入とすれば、何俵減するか。

(18) 荷物を運ぶに一日五回とすれば二十一日にて終はる。若し一日に二回宛増さば、何日丈け早く終はるか。

(19) 荷物を運ぶに一日四回とすれば十二日に終はる。若し四日丈け日數を延ばすときは、幾日何回宛減することゝなるか。

(20) 荷物を運ぶに六人なれば十二回にて終はる。若し二人増すときは何回減するか。

第十八課 雜題

- (1) 金五拾四圓にて米拾貳俵を買ひ得るとき、六拾參圓にて何俵を買ひ得べきか。
- (2) 金五拾四圓にて米拾貳俵を買ひ得るとき、更に貳拾貳圓五拾錢を加ふれば、總べて何俵を得るか。
- (3) 玄米四斗貳升より參斗九升の白米を得る割合として、參斗四升入七俵の玄米より何程の白米を得べきか。
- (4) 甲は白米八升を買ふて代金壹

- 圓拾貳錢を拂らひ、乙は同じ代金の米を甲より四升多く買へり。乙の拂ひたる金高何程。
- (5) 五人ならば十二日間支ゆる食米あり。參人ならば何日間支ゆるか。
 - (6) 五人ならば十二日間支ゆべき食米を、六人にて食すれば何日丈け早くつきるか。
 - (7) 五人十二日分の食米を、五人にて三日間食して後二人減じたり。此後何日支ゆるか。
 - (8) 四人十五日分の食米あり。之れを四人にて六日間食して後二

- 人増したり。猶何日支ゆるか。
- (9) 木綿壹丈四尺の代金壹圓五錢
なるとき、壹圓參拾五錢にては
同じ木綿何程を買ひ得べきか。
- (10) 甲は木綿壹丈八尺の代金に壹
圓拾七錢を拂らひ、乙も同じ木
綿を買ふて、甲より參拾貳錢五
厘多く拂へり。乙は何尺買ひし
ものか。
- (11) 瓦斯縞參反の價と木綿緋四反
との價相等し、瓦斯縞壹反の價
參圓貳拾四錢なる時は、木綿緋
一反の價何程。
- (12) 瓦斯縞と木綿緋の價の割合を

- 前題の如くし、瓦斯縞五反の價
拾四圓貳拾錢なるときは、木綿
緋壹反の價何程。
- (13) 八疊敷の表替をするに、表代貳
圓四拾錢、賃錢七拾貳錢を要す、
同じ割合にて四疊半の表替を
するには、何程の費用を用する
か。
- (14) 疊八枚の代金七圓六拾錢なる
とき、六疊と四疊半との二室の
疊代金何程。
- (15) 疊六枚の表を裏返しするに、手
間賃四拾貳錢、糸代四錢八厘、へ
リの布代貳拾四錢なるときは、

八枚の裏返しをするに凡ての費用何程。

(16) 全三疊と四疊半の費用何程。

(17) 馬車は一時間に壹里五合を行き、人力車は壹里貳合を行く、今馬車にて四時間かゝる所を、人力車にて行くならば何時間かゝるか。

(18) 馬車と人力車との速さの割合を前題の如くし、人力車にて拾五時間かゝる道を馬車にて行かば、何時間早く着くか。

(19) 馬車一里の賃錢を六錢とし、人力車一里の賃錢を拾五錢とせ

ば、人力車八里の賃錢を以て馬車に乗るときは、何里行くか。

(20) 一帖貳錢四厘の半紙六帖を買ふべき金にて、一帖壹錢八厘の半紙を買はば、何帖多く買へるか。

第十九課 總練習

- (1) 桃百五拾個あり、之れを兒童一人に付き、五個宛與ふれば、貳拾五個餘るといふ。兒童數何程。
- (2) 饅頭若干個あり、一人に付き三個宛、四百五拾人の兒童に與ふるも、尙ほ五人分残るといふ。饅

頭の數何程。

(3) 鶏卵百貳拾個を壹圓八拾錢にて買ひ入れ、之れを賣りて參拾六錢の利益を得たりと云ふ。一個の賣價何程。

(4) 鶏卵壹個を貳錢宛にて百五拾個買ひ入れたるに、其内拾五個は腐敗せりと、残りを壹個貳錢貳厘宛にて賣り盡さば、差引全体に於て損益如何。

(5) 一升の價四拾錢の酒一升五合と、參拾五錢の酒貳升とを取り交せて、平均一升到付き四拾貳錢に賣るときは、利益總計何程。

(6) 一升の價拾五錢の醤油三升五合と、拾貳錢の醤油壹升五合とを取り交せて、平均一升到付き拾四錢に賣るときは、損益如何。

(7) 男工夫五人の賃錢と、女工夫八人の賃錢と相等し。男一人の賃錢四拾錢ならば、女一人の賃錢何程。

(8) 男女工夫の賃錢の割合を前題の如くし、女工一人の賃錢を貳拾錢とすれば、男工三人分何程。

(9) 縦拾六間、横拾八間の土地の内に、四拾八坪の池を堀れば、残りの坪數何程。

- (10) 縦拾貳間、横九間の土地の周圍に、垣を造るに、一間の費用八拾五錢かゝらば、總ての費用何程。
- (11) 壹筋五間三尺の繩拾參本をつなぎ合するに、つなぎ目一つに付き五寸五分縮まるとすれば、總べて、つなぎ合せた所の長さ何程となるか。
- (12) 五拾錢銀貨より砂糖壹斤半の代金を拂ひ、其つり錢に參拾貳錢受取るときは、此砂糖壹斤の代金何程。
- (13) 牛肉三斤半を買ひ、五拾錢銀貨にて拂はんとすれば、參拾四錢

- 不足すと云ふ。牛肉一斤の價何程。
- (14) 一尺の價七錢五厘の木綿絣壹丈六尺を買ひ、其代に一升拾參錢の米八升を拂へば、尙ほ不足金何程。
- (15) 壹斤八錢の砂糖參斤半を買ひ、其代金として一升拾參錢の米一升八合を拂へば、尙ほ何程不足するか。
- (16) 一工事の八分の五をなすに、二十五日を要したり。全工事は初めより何日間にて終はるか。
- (17) 一工事あり、甲は九日にて終は

り、乙は十二日にて終はる。今甲五日間之れを成し、其殘業を乙一人にて成さば、尙ほ何日間かゝるか。

(18) 竿を水中に立てしに、水上に出づる部分は全長の七分の五にして、壹丈貳尺なりと云ふ。此竿の全長何程。

(19) 深さ三尺五寸の水中に竿を立てしに、全長の十一分の五を沒せり。竿の長さ何程。

(20) 或人所持金の五分の二を費やしたるに、残り六圓參拾錢となりたり。此人初めの所持金何程。

(21) 或人所持金の五分の三にて帽子を買ひ、五分の一にて足袋を買ひしに、殘金貳拾五錢となれり。此人初めの所持金何程。

(22) 或人所持金七圓五拾錢の五分の二を吳服店に拂ひ、五分の二を酒店に拂へり。殘金何程。

(23) 或人所持金の貳分の一を費やし、又残りの二分の一を費やしたるに、殘金貳圓五拾錢となれり。初めの所持金何程。

(24) 或學校の生徒の數を算するに、女子は男子の五分の三より五人多し、而して男子は三百二十

五人なり、男女合せて何程。

(25) 或學校の生徒數を算するに、男子は女子の一倍半にして、女子は八十六人なりと、男女合せて何人か。

(26) 甲乙二人の旅人あり。甲が五時間間に達する道を、乙は七時間を要す。乙貳拾時間を要する道を、甲ならば何時間かゝるか。

(27) 甲乙二人の學生あり、筆寫をなすに、甲が三枚を寫す間に乙は五枚を寫す。甲貳拾壹枚を寫す間に乙は何枚寫すか。

(28) 四人十五日分の食米あり、之れ

を五人にて食すれば、何日間支ゆるか。

(29) 六人二週間分の食米あり、之れを四人にて食すれば、以前より何日間延ぶか。

(30) 毎日八時宛働きて、十八日間に成就する仕事あり。毎日の勤務時間を貳時宛減するときは、何日間日數が延ぶか。

小學算術書卷二 兒童終用

卷二 答記入の部

答記入の部

K135.4

明治三十六年十一月廿二日印刷
明治三十六年十一月廿五日發行

小學算術書兒童用

定價金 錢

著作者

福岡縣教育會

發行者

辻 本 卯 藏

發行者

眞 海 德 三 郎

福岡縣筑紫郡三宅村
大字和田壹番地

發行者

森 岡 榮

福岡市博多中島町一
七十二番地

印刷者

大 西 鍊 三 郎

東京市麹町區有樂町
三丁目一番地

印刷所

三 協 合 資 會 社

東京市京橋區弓町二十四番地

不許複製

發行所

福岡市博多中島町
積善館支店

發行所

福岡市博多桃屋町
眞海書店

發行所

福岡市博多中島町
博文社

13

165

